

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜聾学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年1月31日(金) 13:30~15:20
- 3 開催場所 岐阜聾学校会議室
生徒会と運営協議会委員との交流を実施
- 4 参加者

会長	村瀬 忍	岐阜大学 教授
副会長	山村 基翔	岐阜県聴覚障害者協会 理事
委員	岩田 順治	岐阜市社会福祉協議会 加納東支部 主事
	尾木 大	株式会社岐阜セラック製造所 取締役社長
	棚原 美歌	加納東地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員
	藤井佐由美	加納幼稚園 園長
	井戸才二郎	本校同窓会 理事
	吉村 久美	本校PTA会長
学校側	長瀬さゆり	校長
	駒月 良美	事務部長
	岩田 浩子	幼稚部主事
	高田亜希子	小学部主事
	今枝みどり	中学部主事
	三橋 正康	高等部主事
	樋口さおり	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 校長挨拶

(2) 生徒会(高等部)との交流について

- ①生活目標：生徒会役員が決めた生活目標を伝え、意識して生活できるようにしている。
- ②挨拶運動・交通安全街頭運動：元気に挨拶をし、安全に横断歩道を渡れるようにする。
- ③要望の提出：7件の要望の検討を重ね、生徒全員にアンケートをとり、校長に提出した。
- ④いいところみつけ：仲間の良い姿、頑張っている姿を模造紙に貼って提示した。
- ⑤岐阜聾祭：アンケートを取り、スローガンを決め、掲示物やリーフレットを作った。
- ⑥高校生による交通安全推進大会に参加：ヘルメットの着用率を高めるために、話し合った。

意見1 スリッパの改善。企業でも業務改善をしている。素晴らしい取組である。アドバイスとして改善するためには、スリッパにした経緯も知ったうえで、提案するとよい。

意見2 自転車のヘルメットは、学校以外の時でもかぶってほしい。

意見3 ヘルメットをかぶらないのは、どうしてか？見た目重視と聞いたことがある。一人かぶらないと自分もいいかと思ってしまう。大人も同じである。スリッパからシューズに変更した点について災害のことを考えるとよい観点である。

意見4 スリッパからシューズに変更にした点について、災害のときにそのまま外に行くと考えると、安全面でシューズのほうがよい。

意見6 他校との交流があるか？→聖徳学園高等学校と交流がある。他校ともバレーボールの交流がある。

(3) 令和6年度卒業生の進路状況について

進学者2名、就職者3名

※近年の状況

- ・卒業生のおよそ3割が大学等への進学、7割が企業等への就職。
- ・就職に向けての活動は、製造現場だけではなく事務作業も視野に入れて就業体験先を検討する

ことが増加している。

- ・製造現場の勤務に多く見られる二交代や三交代勤務での夜勤をできるだけ避けたいと考えている生徒が多く見られる。
- ・生徒が減少しているため、先輩としてのモデルが少ない。狭いところで進路の選択をしている。

※今後の対応

- ・広く進路選択ができるように、職場開拓、進学先の情報を収集する。
- ・様々な学習活動を通して、自分と向き合う、自分のことを考える時間をもてるようにする。
- ・学校と家庭が一体となり、子どもの将来について考えられるように協力する。

(4) 意見交流

意見1 高等部の進路指導について

大学へ進学する聴覚障がいの生徒が増えている。大学に入ってから情報保障がどれくらいなされているのかが問題になっている。大学の情報保障がないときどうすればいいのか。聾学校として、大学の状況を把握して伝えているか。

(回答) 進路担当者から受験に際して大学に確認して生徒に伝えている。また、入学してからの困り感は、入学する前の引継ぎや進学支援を行ったり、当校の卒業生職員から経験を伝えたりしている。

意見2 聞こえないことを自分から伝えることが大切。自分が聞こえないことを伝える指導があるか。

(回答) 小さい時から、自分自身のよさに気づく指導を大切にしている。聞こえについては、年齢に合わせて指導している。職場体験、交流のときなど、機会は多くないが、聞こえる子と関われる機会はある。事前に児童生徒自身に考えさせ、不足しているところは、繰り返して取り組むことが必要だと思う。

意見3 高等部は、挨拶運動をやっているとあるが、校内ですれ違う時に挨拶をしない子が多い。日常的に挨拶がきちんとできるとよい。

意見4 聾学校の中だけしか通じない手話が多い。正しい手話の獲得、活用ができるとよい。

意見5 異動された職員が手話を使えないのが残念だといっていた。忘れてしまわないようにしたいという声があった。異動した学校でも活用できるとよい。

意見6 先輩としてのモデルが少ないことや、手話技術の向上を図りたいということであれば、聴覚障害者協会の活用が可能であり、協力したい。

意見7 農業は、畜産、酪農、花き農業など様々である。いわれた仕事をこなすのではなく、自分で考えて自分の責任でできる仕事は魅力があるので、職業選択の一つとして考えてはどうか。

意見8 ろう者はコミュニケーションが難しい。大きな会社に就職するのではなく、個人でやっている職場や、自営、独立という道もあってもよいと思う。

意見9 いじめの傾向が変わってきている。SNSでの誹謗中傷など、社会の批判を受けて問題が大きくなっているケースが増えている。情報量が少なく、情報を自ら取りに行かないといけないう聾学校ならではの課題もある。新しい問題に向けた対応策が必要である。

6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会では、全委員と生徒会との交流、卒業生の進路状況の報告に対する意見をいただいた。
- ・委員からいただいた学校の活動に対する意見を校内で共有するとともに、それを基に教育活動の見直しを行いながら、今後の授業実践や魅力ある学校づくりにつなげていく。